

(兼題)

「知る」 小豆沢歌子 選

佳句

子の巢立ち柱の傷は知っている
新益を知るか知らずか蟬しぐれ
卒業しようやく知った師の恩義
出雲路の冬の風知る築地松
知らないで幸せだった花の時期

人

敬子
らんまん
瑞人
ちかし
らんまん

そこからは知らない振りをしていよう

伊藤 寿美

地

やがて子も海の広さを知るだろう

伊藤 寿美

天

苦勞して今平凡の幸を知る

竹治ちかし

軸吟

煮えてくる鍋の機嫌は知っている

小豆沢歌子

(兼題)

「恩」 伊藤 玲峰 選

佳句

想い出を胸に畳んで悔いる恩
数多ある中でも深い父母の恩
父母の齢なつて解つた父母の恩
返せない恩が多くてまだ死ねぬ
時を越え恩師の檄を嘯みしめる

人

歌子
ゆきこ
ちかし
ちかし
利彦

返せないままの恩義がふたつ三つ

柳葉たえこ

地

後続へ返すと決めたこの恩義

西坂 瑞人

天

親の恩 子に返してもまだ余る

増田のぼる

軸吟

幾つもの恩を背負つて生きている

伊藤 玲峰

(兼題)

「再び」 竹治ちかし 選

佳句

二度三度同じ失敗繰り返す
懐に再び燃える導火線
再会の変らぬ君は桜色
再会は偶然寄つた縄のれん
古傷が再び痛み出して来た

人

あけ美
歌子
らんまん
たえこ
久子

沈む故郷再開発の名の下に

西坂 瑞人

地

再婚の決意子どもに背を押され

伊藤 寿美

天

届かない夢を再び見てしまふ

岡 あきら

軸吟

再びを祈つて今日の幕降ろす

竹治ちかし